

麻疹風疹混合予防接種

◎風疹とは

麻疹ウイルスの飛沫感染によっておこります。潜伏期間は2～3週間です。軽いかぜ症状ではじまり、発疹、発熱、後頸部リンパ節腫脹などが主症状です。そのほか眼球結膜の充血もみられます。発疹も熱も約3日間で治るので「三日ばしか」とも呼ばれることがあります。合併症として関節痛、血小板減少性紫斑病、脳炎などが報告されています。血小板減少性紫斑病は患者3,000人に1人、脳炎は患者6,000人に1人くらいです。大人になってからかかると重症になります。

妊婦が妊娠早期にかかると、先天性風疹症候群と呼ばれる病気により心臓病、白内障、聴力障害などの障害を持った児が生まれる可能性が高くなります。

◎麻疹とは

麻疹ウイルスの空気感染によって起こる病気です。感染力が強く、予防接種を受けないと、多くの人がかかる病気です。発熱、せき、鼻汁、めやに、発疹を主症状とします。最初3～4日間は38℃前後の熱で、一時おさまりかけたかと思うと、また39℃～40℃の高熱と発疹がでます。高熱は3～4日で解熱し、次第に発疹も消失します。しばらく色素沈着が残ります。

主な合併症としては、気管支炎、肺炎、中耳炎、脳炎があります。患者100人中、中耳炎は約7～9人、肺炎は約1～6人に合併します。脳炎は約1,000人に1～2人の割合で発生が見られます。また、亜急性硬化性全脳炎という慢性に経過する脳炎は約10万例に1～2例発生します。このように、予防接種を受けずに麻疹（はしか）にかかった人は、数千人に1人の割合で死亡します。

◎麻疹風疹混合予防接種について

麻疹及び風疹を弱毒化してつくったワクチンです。ワクチンの効果は高く、接種した人の95%以上が免疫を獲得することができます。

【副反応】

主な副反応としては、接種後4～14日に発熱が約25%、発疹が8～12%見られます。他の副反応として、注射部位の発赤・腫脹（はれ）、硬結（しこり）などの局所反応、じんましん、リンパ節腫脹、関節痛、けいれんなどがみられます。また、まれにアナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、脳炎、けいれんなどが生じる可能性もあります。

◎風疹及び麻疹風疹混合予防接種前の注意事項

予防接種は健康な人が元気なときに接種を受け、その病原体の感染を予防するものですから、体調の良いときに受けるのが原則です。もし何か気にかかることがあれば、あらかじめかかりつけの医師にご相談ください。

◎風疹及び麻疹風疹予防接種を受けることができない人

- ①妊娠をしている、または妊娠しているものと疑われる人
接種後2か月は避妊が必要です。
- ②明らかに発熱のある人
一般的に熱のある人とは、接種会場で測定した体温が37.5℃を超える人です。
- ③重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
急性の病気で薬を飲む必要のあるような人は、その後の病気の変化もわかりませんので、その日の

接種は受けないのが原則です。

- ④今までに受けた予防接種によって、アナフィラキシーを起こしたことのある人
「アナフィラキシー」とは、通常接種後約30分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。汗がたくさん出る、顔が急に腫れる、全身にひどいじんましんが出るほか、はきけ、嘔吐、声が出にくい、息が苦しいなどの症状に続きショック状態になるような激しい全身反応のことです。
- ⑤その他、医師が不適當な状態と判断した場合
上の①～③に該当しなくても医師が不適當と判断したときは、予防接種は受けられません。

◎風しん及び麻しん風しん予防接種を受ける前に医師とよく相談しなければならない人

- ①心臓病、肝臓病、腎臓病や血液の病気で治療を受けている人
- ②カゼなどのひきはじめと思われる人
- ③前に予防接種を受けたとき、2日以内にアレルギーを思わす異常があった人
- ④薬の投与を受けて発しんが出たり、異常をきたしたことのある人
- ⑤今までにけいれんを起こしたことがある人
- ⑥過去に免疫状態を検査して異常を指摘されたことのある人
- ⑦食物、抗生物質などにアレルギーがあるといわれたことのある人
- ⑧家族・友達の中に、麻しん(はしか)、風しん、おたふくかぜ、水痘(みずぼうそう)などの病気が流行している時で、まだ、その病気にかかったことがない人

◎風しん及び麻しん風しん予防接種後の注意事項

- ①予防接種後30分間は、医師とすぐに連絡を取れるようにしておきましょう。急な副反応はこの間に起こることがあります。
- ②予防接種後2～3週間は副反応の出現に注意しましょう。
- ③接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は差し支えありませんが、注射した部位を強くこすことはやめましょう。
- ④接種当日のはげしい運動はさけましょう。

◎副反応が起こった場合

予防接種の後、まれに副反応が起こることがあります。また、予防接種と同時に、他の感染症がたまたま重なって発症することもあります。

予防接種を受けた後、注射部位のひどい腫れ、高熱などの症状があったら、医師の診察を受けてください。